

大津島データ 142世帯
人口 193人 男 79人 女 114人
高齢化率 80.3%
(令和5年3月31日現在)



潮流

題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん

刈尾地区の松田翔剛さん、有美さんご夫妻

おめでとうございます



燈季(とうき)くん 2728kg

良き親、良き友として家族三人仲良く頑張ります！
島の皆さんにも可愛がってもらえたら嬉しいです！
これからもよろしくお願い致します。

2月8日に男の子が誕生しました。
彼の生きる世界が、自然の移りゆく季節の中で、
彩り豊かなものとなりますように。
名前は燈季です。

吹き込んできたぞ！

おめでたいでっかいニュースが



島の赤ちゃんのその後

(印象に残ったことを聞いてみました)

古城 瑛太(えいた)くん
R3.9.30生

歩けるようになったことがうれしかった。

毎日、大変だけど笑顔を見ていると大変なことも吹き飛び、幸せです。

こっちの呼びかけで反応したことや、笑ってくれたこと。



波多野 光(みちる)ちゃん
R4.5.17生



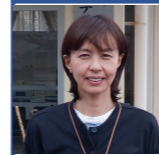
小池 陽太(ようた)くん
R4.9.9生



これからよろしくお願ひします



4月1日付けで大津島支所として勤務することになりました。支所の業務は初めてですので、まず顔と名前を憶えていただき、皆さんと一緒に頑張って頑張りますので、よろしくお願い致します。支所 所長 松島 和美



4月から大津島デイサービスセンターで勤務しております。一人でも多くの方に「また、行きたい。」と思っていただけるように、デイサービスが居心地の良い場所となるように、明るく元気に頑張りたいと思います。デイサービスセンター 所長 進賀 共代



4月より大津島郵便局に勤務することになりました。猫が大好きなので、通勤の時に港にいる猫たちを見て毎日癒されております。入社3年目でまだまだ至らない点多々あるかと思いますが、地域の皆さまのお役に立てますよう、日々精進してまいりますのでよろしくお願い致します。郵便局 大木 明



4月より、大津島担当となりました。高齢者の相談窓口として、要介護認定の申請や介護保険サービスの利用、住宅改修などの相談・調整、100歳体操や協議体のサポートをしております。訪問は月2、3回で、ご家庭やデイサービスなど回っています。大津島は、5年ぶりの担当です。どうぞよろしくお願い致します。つづみ園地域包括支援センター 松田 俊也



皆さん、この度新たに郵便局に赴任した「馬島」の内山剛です。殆どの方が僕と気付いてもらえないので、これから島で制服で生活しようかな～(武田局長より、絶対ダメ!) 宜しくお願い致します。郵便局 内山 剛



お世話になりました



大津島支所勤務となって3年5か月、あっという間でしたが無事に大津島で定年を迎えることができたのは、ひとえに皆様の支えがあったおかげだと思っております。これからも島には、ちょくちょく来る予定ですので、お声掛けをよろしくお願い致します。本当にお世話になりました。

支所 前所長 沖 武士

振り返れば、あっという間の4年間でした。いつも笑顔で接して下さる皆さんに、温かい思いをいただくばかりで、今から恩返しをと思っていたのですが、若い所長さんに大津島を託すことになりました。遊ぶなんてもったいない!と思われる方もいらっしゃると思いますが、息抜きや気分転換にデイサービスを利用させていただけるように準備万端でお待ちしております。私もデイサービスに足を運ぼうと思っていますので、皆さんもどうぞお越しください。短い間でしたが、ありがとうございました。デイサービスセンター 前所長 竹内 雅子

3月末で大津島郵便局からの異動を命ぜられました。2年と2ヵ月という短い間でしたが、大津島の気候のように暖かく島民の皆様に支えていただきました。改めて感謝申し上げます。また、後任の大木ともども、大津島郵便局を末永くご愛顧いただければ幸いです。

郵便局前勤務者 山本 大悟

平成30年から5年間、大津島の皆さまには大変お世話になりました。高齢者の相談窓口として、少しはお役に立てたでしょうか?黄色いバイクで島内を走りまわったこと、皆さんとおしゃべりしたこと、体操したこと、思い出がたくさんです。大津島の素晴らしい景色と皆さんの笑顔をお忘れません。またお会いできるまで、どうぞ元気で過ごして下さい。後任の松田も宜しくお願い致します。

つづみ園地域包括支援センター前勤務者 山中 雅美

大津島の皆様には、駐在所員として、住民として暖かく受け入れてくださり、誠に感謝申し上げます。皆様の優しい声掛けに日々元気を頂き、心も体も健康になりました。この4年間の経験を活かして、新たな勤務地でも、地域住民の安全安心を守っていきたくと思います。大変お世話になりました。駐在所前勤務者 衛藤 豊文



38 クスノキと楠木正成、そして回天

文川大津島巡航 三崎 英和

新緑を迎える季節となりましたが、クスノキの葉も新しいものになりましたね。周南市の「市の木」でもあるそのクスノキですが、回天記念館の前庭でも立派なものが数本見られます。それらは、過去来館された方々が植樹されたものですが、ではなぜクスノキが選ばれるのでしょうか。

それは南北朝時代に活躍した、楠木正成にちなんでいいます。正成は優れた武将であったことや、身を挺して後醍醐天皇を守ったことから、古くから人気がありました。そのため「回天」に関しても、そのゆかりのものが利用されています。

「回天」の胴体に描かれている、「菊の花と水の流れ」の印は「菊水」といい、これは楠木家の家紋です。「回天」の部隊名には「菊水隊」もあり、その他にも「金剛隊」の金剛は、正成が鎌倉幕府と戦

った金剛山から、「多門隊」の多門は、正成の幼名からとったものです。

ところで、出撃隊員たちが巻いているハチマキに記した文字「七生報国(しちしょうほうこく)」。これは、一生国のために尽くすという意味で、正成が自害するときに残した言葉ですが、実際の文言は「七生報国」ではなく「七生滅賊(めつぞく)」でした。

つまり正成の言葉が、戦前、戦争への道を進めていく国のプロパガンダとして転用利用されてしまったことになるのです。

新緑の高くそびえるクスノキを見ていると、そんなことが頭に浮かんできました。



イラスト 三崎さん

若潮の会通信 No.50

この5月号が出ている頃には、若潮の会の新年度の活動目標もある程度、決まっていることでしょう。4月30日に



文=佐々木 照彦

松島新支所長をお迎えして総会を開催することとしています。

2月に新年会を開催し20名の参加がありました。その時の話題で「未来の風モメントに上りたい。」「近江に行ってみよう。」「石風呂は・・・」等ということがありましたので、今回は総会前に未来の風モメントに上ります。山頂近くは、整備していただいたようですので期待したいと思います。その辺の様子は次号で誰かに紹介していただくとして・・・

新年度もさつまいも作り、海岸清掃、ソフバレーなどの例年行っている事業、遠足などの懇親的なもの、伝統行事や対外的イベントへも積極的に参加し、行きたいと思っております。よろしくお願ひします。



知っちょるがね 「ほいかめわん」



文川松本 千恵子

私の祖父は亀松と言います。通称かめーオジ。若い頃は随分ごっぱう者で、祖母を散々泣かせたそうです。遠洋の船を作った

いでも、チャンリチャンリと皆使って戻り、一銭の金もない。昔はツケで買い物をしていて、それを盆正月にまとめて払う生活だったそう。かめーオジが戻ったら支払いをする積もりの祖母は途方に暮れる。盆が過ぎたら正月迄はまたツケで買わせてくれたらそれで、かめーオジが戻ってから盆が明けるとは外にも出られず家にかごじよった(屈んでいた)と後年祖母が話していました。それに倣えて子供達も外で騒がしく遊んではならんと言いつけられて、窮屈な思いをしたらしい。そんな生活がそうそう続くものでもなく、遂には船も売ってしまわねばならなくなり、借金だけが残って冬の時代が続いたそうです。だから一家全員働きに働いて生きていた。大陸に出る者もいたし、働いただけのお金は全部親に差し出した孝行者もいて、大きな波を乗り越えた頃のかめーオジの話。あるオジサンと仲間、請負の仕事をしていた。

そのオジサンは苦勞人で、貧しい暮らしで学校にも行けなかったそうで、字は少し読めるけど、計算は出来ない人だったとのこと。

それで騙された事も沢山あって人に対して不信感を持っていたと言います。

月末に稼ぎを分ける時、話し合っていて綺麗に半分分けにしよう決めて、貰って来たお金を計算して渡しても、誤魔化されているんじゃないかと、いつも納得せずに機嫌が悪いのだそうです。何度もそうなので、かめーオジは一計を案じてオジサンにお金を分けさせる事にしました。まず2人が向かい合わせに座って、貰って来たお金を全部真ん中に置いて、オジサンがひとつづつ「ほい、カメさん」と言いつつひとつづつ「ほい、カメさん」と言いつつ自分の前に、それを最後のひとつになるまで、「ほいかメさん、ほいわし、ほいかメさん、ほいわし」と毎月繰り返したそうです。その場面を想像する度、面白くて大好きな話でした。

ここでかめーオジからの格言をひとつ「世の中に恐るものが三つある。雨の漏るのとバカとしゃくぎん」しゃくぎんは借金の事、金に苦勞して景気の良い時と悪い時の人からの態度や、それが見抜けなかった我が身を振り返っての言葉。その一族はまだまだ貧乏からは脱却出来んけどなあ。由緒正しき貧乏人。

気が付けば・・・

大津島は、春は桜が咲き乱れて、とても綺麗です。私が初めて農協大津島支所に赴任したのは、平成16年(二〇〇四年)4月の桜の花びらが雪のように舞い散る頃でした。当時の大津島の人口が517人で、農協に毎日たくさんの方が来店され、とても賑やかでした。配達も集落ごとに軽トラックの荷台に肥料などを満載して往復してました。忙しい毎日でしたが懐かしく思い出されます。

大津島の皆さんとふれあい、助けて頂き、時には杯を酌み交わし、自然の恵みをたくさん頂いて過ごしているうちに気が付けば、あれから、19年の月日が流れていました。

今年も桜が綺麗に咲いています。年々歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず「大津島の人口は195人(令和5年1月)となり、懐かしい方をふと思ひ出す事が多くなってきました。

私も今年で62歳になります。最初の頃から比べて、体力が、かなり落ちてしまいました。しかし、体が動く限りは、大津島に恩返し出来るようにがんばりたいとおもいます。

文川JA山口県大津島店・馬島店 戸倉 充博